

(仮称)高校・地域が連携した研究会について

飯田市教育委員会  
飯田市大学誘致連携推進室

(1)目的

若者が自身のアイデンティティとなる地域に心根を置き、自らの人生を切り開いていく力を育むため、高校と地域が連携し、この地域の豊かな資源を効果的に高校教育に活用するための視点・手段・枠組みを研究する。

※具体的な方向性や内容は、集まったメンバーの興味関心に応じて検討していく

(2)構成

- ア 高校：市内5高校より選出いただいた先生方
- イ 大学：学輪IIDAメンバー（アドバイザー）
- ウ 地域：飯田市教育委員会、飯田市役所の関係部局

(3)活動内容

- ア 定例研究会：情報共有・研修・意見交換等（年4～5回程度）
- イ 高校生の学びに関わる各種取組を持ち寄ったケーススタディ
- ウ 成果の整理・まとめ
- エ 成果報告・共有（各高校内での報告および、学輪IIDA全体会等の機会を捉えて実施）

立ち上げの背景と趣旨

現在、高校教育現場においては、人口減少・少子化に伴う校区再編の流れの中で各学校における特色ある高校づくりが進められています。そこでは、地域社会で活躍できる人材の育成・排出や、思考力や判断力、表現力といった「生きる力」が重視される大学入試改革に対応した教育が求められ、新学習指導要領の下、地域の課題研究や探究的な学びの取組展開など、地域社会での体験を伴う学びの必要性が益々高まっています。

一方で、地域においては、飯田型キャリア教育の推進として、社会教育の視点で地域と高校生をつなげる飯田市公民館の高校生講座や、地域の産業界の力を高校の人材育成へ活かすつなぐ事業、飯田をアカデミックな視点で整理・分析し高校生・大学生の学びにつなげる学輪IIDAの高大連携など、地域社会を舞台とした高校生の様々な学習活動を展開しています。

地域における実践を高校教育に効果的に活用することは、様々な課題に直面する各高校の教育活動の充実につながり、ひいては人生の岐路に立ち進路を選択していく当地域の若者が進学・就職に必要な学力や能力を身に付け、地域社会とのつながりの中で実体験を通して自身の在り方を模索し、目当てを持って進路選択をできる人間力を培う教育環境の実現に結び付きます。

そのためには、地域の資源を活用した体験的な学びを学校教育で得られる知識や技能と結び付け、それらを咀嚼し活用していく探究的な学びのプロセスに統合し、発達段階や各高校の特色に応じた教育へと無理なく組み込むことが必要です。

そこで、高校と地域が連携し、地域の豊かな資源を各高校の特色ある教育により効果的に結びつけるために、それぞれの知見や情報を共有しながら考え合う機会をつくりたいと考えます。